

## 平成 29 年度地方創生推進交付金事業の検証（実施状況）

### ◎大田原市移住・定住促進事業（事業費 26,300 千円：交付金 13,150 千円）

大田原市への新しい人の流れを生み出すために、①大田原市を知ってもらう、②大田原市に来てもらう、③大田原市に住んでもらうという3つのステップの段階的で重層的な施策展開により、人口減少に歯止めをかけることを目的として事業を実施する。

#### 1 事業の実施状況

##### (1) 大田原市移住・定住サポートセンター事業

委託先：特定非営利活動法人やってみっぺよ大田原未来塾

本市への移住希望者のニーズに対応するため、移住希望者の掘り起しから移住後のフォローアップまで、一貫した総合的なコーディネートを実施する機関として、「大田原市移住・定住サポートセンター」を開設し、各種事業を実施する。

##### ① 大田原市移住・定住サポートセンターの運営

平成 28 年 9 月 6 日、本町 1 丁目に開設された「大田原市移住・定住サポートセンター」に専従のスタッフが常駐し、移住相談や移住セミナー等を通じて、移住希望者のニーズに合ったサービス提供を行っている。



##### ○サポートセンター月別相談件数（件）

方法 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
電話	7	3	7	8	11	12	6	1	7	11	17	9	99
対面	5	2	8	7	12	5	2	12	12	13	5	7	90
メール					3	1		1	6	6	5	2	24
その他					13	20	15	8	9	7	8	11	91
計	12	5	15	15	39	38	23	22	34	37	35	29	304

※その他⇒センターからの連絡や情報提供

##### ○相談者年代 ※不明 53 人

20代	13人	5.2%
30代	61人	24.3%
40代	41人	16.3%
50代	85人	33.9%
60代	47人	18.7%
70代	4人	1.6%
合計	251人	

##### ○相談内容

住まい	164件	39.6%
仕事・就労	100件	24.2%
地域情報	—	—
行政・制度	28件	6.8%
宿泊施設	12件	2.9%
その他	110件	26.5%
合計	414件	

## ② 移住・定住セミナー及び移住者サロンの開催

東京都内における移住希望者掘り起しのための移住相談セミナーの実施、また、移住者同士、移住者と地元住民との意見交換を行う移住者サロンを開催する。

### ア 第3回大田原市移住・定住セミナー

開催日：平成29年11月25日（土）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

参加者：7世帯9名（東京都7名、神奈川県1名、埼玉県1名）

### イ 那須地域産直フェア〔那須モードで休もう展〕への出展

開催日：平成29年7月22日（土）～27日（木）

場 所：丸の内KITTE地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーン

主 催：特定非営利活動法人 那須地域元気アップ協議会

内 容：3市町（本市、那須塩原市及び那須町）共同による当番制での那須地域のPR

### ウ ふるさと回帰フェア2017への出展

開催日：平成29年9月10日（日）

場 所：東京国際フォーラム

主 催：認定特定非営利活動法人

ふるさと回帰支援センター

全体来場者：19,791名（主催者発表）

内 容：各ブースでの相談及びPR

県内では、栃木県、日光市、足利市、那須烏山市、益子町、芳賀地域就農支援ネットワーク会議が出展



### エ 第4回とちぎ暮らしセミナー～観光地で暮らす・働く～（栃木県主催）

開催日：平成30年1月13日（土）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

参加者：20組25名

内 容：県担当者によるとちぎの魅力紹介、参加市（本市、那須塩原市、矢板市、日光市、鹿沼市）の担当者及びゲストによる市PR、個別相談会

### オ 第5回とちぎ暮らしセミナー～空き家の探し方講座～（栃木県主催）

開催日：平成30年2月17日（土）

場 所：移住・交流ガーデン（中央区京橋：越前屋ビル）

参加者：9組13名

内 容：県担当者によるとちぎの魅力紹介、参加市（本市、那須烏山市、栃木市）の担当者及びゲストによる市PR、移住者体験談、個別相談会

カ とちぎUIJターン企業交流会 in 東京 (栃木県主催)

開催日：平成 29 年 10 月 25 日 (水)

場 所：ふるさと回帰支援センター

参加者：就職希望学生等 16 名

(主に在京の大学 3 年生)

内 容：採用募集事業所（カワチ薬品、  
元気寿司、栃木銀行、本市）に  
よる採用状況等の説明



キ 移住者交流サロン（交流会）の開催

・第 1 回 開催日：平成 29 年 12 月 6 日 (水)

場 所：大田原市移住・定住サポートセンター

参加者：11 世帯 11 名

・第 2 回 開催日：平成 30 年 3 月 29 日 (木)

場 所：カフェ a s (市内中央：地域おこし協力隊経営)

参加者：11 世帯 22 名

ク 出張相談会（移動相談窓口）の実施

市内の各種イベント（大田原マラソン大会、くろばね紫陽花まつり、産業文化祭等）における移住・定住相談窓口の開設（市民がセンターを知る機会も兼ねる）

③ 移住体験モニターツアーの実施

主に首都圏在住者を対象に、大田原市の魅力を体験していただくことで、本市での生活を実感し移住の促進につなげるため、移住体験ツアーを 2 回実施。

ア 第 3 回移住体験モニターツアー

開催日：平成 29 年 10 月 14 日 (土) ～15 日 (日) ホテルみや泊

参加者：1 名 (神奈川県横浜市) 60 歳代男性

内 容：市内見学、工場見学、星旅祭参加、賃貸物件内覧ほか

イ 第 4 回移住体験モニターツアー

開催日：平成 30 年 2 月 10 日 (土) ～11 日 (日) ホテルみや泊

参加者：6 組 11 名 (東京都 7 名、神奈川県 1 名、埼玉県 2 名、千葉県 1 名)

内 容：市内見学、子育て・医療福祉施設見学、農業（イチゴ収穫）体験、  
セカンドハウスなかがわ見学など

④ お試し居住及び施設調査

ア 移住希望者による体験宿泊

・セカンドハウスなかがわ 延べ利用 9 組 140 名

・南方古民家 延べ利用 1 組 10 名

・ゆーゆーキャビン 延べ利用 2 組 12 名

イ 宿泊体験施設の視察（栃木市、鹿沼市、群馬県桐生市）



(2) 大田原市魅力発信事業「大田笑市プロジェクト」

委託先：株式会社電通

首都圏における本市の知名度を向上させ、魅力や住みよさをアピールするため、メディア等を活用したPR戦略により、移住希望者の掘り起しを図る。

子どもの笑顔が育つまち。



栃木県大田原市

① 移住・定住促進プロモーション動画及び「大田笑市」ロゴマーク等のツールを活用した知名度向上事業（首都圏におけるPR）

前年度作成した「大田笑市」ロゴの露出や動画への誘導を図り、大田原市が「オンとオフの充実した暮らし=住民の笑顔が生まれるまち」として首都圏住民にPRするため、老若男女を問わず、大田原市民の笑い話を通じて魅力を伝える新たなコンテンツを制作し、3月15日Web上で公開。

その結果、動画の再生回数は1万回以上増え、ロゴのPRにも成功。Web掲載87件、新聞掲載1件となり、広告費換算で37,304千円の効果を得た。これにより「大田原市の笑顔の秘密」を紐解きながら、さらなる知名度向上につながった。



媒体	件数	広告換算金額
WEB (共同通信 PR ワイヤー転載含む)	87 件	36,965,874 円
新聞	1 件	339,000 円
<b>TOTAL</b>	<b>88 件</b>	<b>37,304,874 円</b>

## ② 市民「大田笑ライター」による魅力発信

前年度開設した「大田原市魅力発信サイト」における新たなコンテンツとして、市民が投稿できるサイトとし、市民の有志による Web ライター講座を実施した。

その上で、受講した市民「大田笑ライター」に投稿を通じ、市の良いところを紹介してもらい、首都圏の若者層や移住定住検討者に大田原市の魅力を発信した。

さらには、継続的な Web コンテンツの活性化により、大田原市の魅力発信のためにすべきことを市民自らが話し合う良い機会となった。

### ア 大田原市民ライター講座

日時 第1回：平成 29 年 11 月 4 日（土）午後 2 時～4 時

第2回：平成 29 年 12 月 2 日（土）午後 2 時～4 時

第3回：平成 30 年 1 月 13 日（土）午後 2 時～4 時

会場 TOKO-TOKO おおたわら 3 階 市民交流センター

講師 今西敦子 氏（株式会社 ai 代表取締役、おでかけトヨタ編集長ほか）

定員 30 名（受講者 28 名）



### イ 大田原市魅力発信サイト「大田笑ライター投稿ページ」



### 【 大田原市魅力発信サイトアクセス数 】

H29. 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
29, 774 回	31, 715 回	34, 357 回	32, 127 回	29, 990 回	32, 127 回	
10 月	11 月	12 月	H30. 1 月	2 月	3 月	年度合計
42, 037 回	43, 094 回	77, 778 回	72, 573 回	54, 184 回	294, 487 回	774, 243 回

### (3) 東洋大学と連携した新たな観光資源の発掘事業

委託先：東洋大学地域活性化研究所（国際観光学部国際観光学科）

国際観光学部の古屋教授と須賀教授の各ゼミにおける研究テーマとして、本市の観光資源の洗い出しと観光メニューの検討等を委託し、都市部の若者目線という新たな視点から本市の観光振興を図ることで、本市への若い世代の誘客を促進し、将来的な移住・定住につなげる。

#### ① 現地調査

〔 古屋ゼミ 〕

期 間：平成 29 年 10 月 26 日 人員：2 年生 6 名

内 容：市内企業、文化観光施設等における観光資源調査、関係者ヒアリング

訪問箇所：吉岡食品工業株式会社、hikari no café 蜂巢小珈琲店、芭蕉の館、道の駅那須与一の郷

〔 須賀ゼミ 〕

期 間：平成 29 年 11 月 11 日～12 日 人員：2、3 年生 16 名

内 容：市内文化観光施設における観光資源調査、関係者ヒアリング、道の駅及びなかがわ水遊園での観光客と地元住民へのアンケート調査等

訪問箇所：雲巖寺、那須神社、大雄寺、旧浄法寺邸跡、TOKOTOKO おおたわら、芸術文化研究所、ハーモニーホール、道の駅那須与一の郷、なかがわ水遊園

#### ② 平成 29 年度研究報告会

日程：平成 30 年 2 月 2 日（金）午後 2 時～5 時 場所：東洋大学白山キャンパス

提案内容〔 古屋ゼミ、須賀ゼミ 〕

ア 中国人観光客（自然・風景への需要が高い。体験を好む）をターゲットにした観光振興策として、JR の周遊券と並行したツアーや健康、美容がテーマのバスツアーの造成のほか、地域資源である唐辛子畑を使った誘致を提案。

イ 高齢者（市場規模が大きい。貯蓄額が高く観光消費も高い）をターゲットにした観光振興策として、くろばね紫陽花まつりとの同時でのくろばね「味彩」まつりの開催、孫との自由研究を主とした孫旅の実施、俳句の活用による誘客など、様々な視点から集客へのアプローチをより効果的に行うことを提案。

ウ 芭蕉コンテンツを活かした教育旅行の検討として、黒羽地区での体験型教育旅行としてウォークラリーやフォトロゲイニング（地図を基に、時間内に指定場所を回り、得点を集めるスポーツ）による学びを行うことにより、地域住民を含めて、当地における芭蕉コンテンツの認知につながり、観光施策として有力な方策となり得る。

エ 芸術文化研究所を活用した芸術・観光の双方向からの観光施策の有効性。

オ 市町村レベルの観光政策による観光組織の設置が必要であり、大田原市が中心となり、どんな観光組織が一番効果的であるか、関係団体が協同して考えるべきではないか。

## 2 K P I の達成状況

移住・定住サポートセンターの開設し、前年度の反省点も踏まえ、様々な方法による周知や積極的な活動を通じて、全体的には成果目標を達成した。特に、首都圏での P R 等の成果により移住相談件数が大幅に増加し、今後の活動につなげることができた。

K P I の設定 (地域再生計画より)	平成 32 年度 指標値	平成 29 年度 指標値	平成 29 年度 達成状況
移住・定住サポートセンターを活用した移住世帯数	20 世帯 (累計)	5 世帯	6 世帯 (累計 8 世帯)
大田原市への移住相談件数	120 件/年	60 件/年	213 件/年 ※イベント除く
「地域ブランド調査」における認知度の順位	415 位	475 位	472 位
大田原市の観光入込客数 (H29 改訂前 320 万人/年)	347 万人/年	333 万人/年	324 万人/年

### ◎大田原市生涯活躍のまち推進事業 (事業費 6,135 千円 : 交付金 3,067 千円)

これまでの「医療・福祉の充実」への大田原市の取組を地域資源として捉え、アクティブシニアが元気なまま安全で安心して過ごせる生涯活躍のまちづくりに取り組み、市民の健康増進、社会参加促進のみならず、中高年齢層の移住者増加、若年層の雇用創出による転出抑制等を図ることにより、人口減少に歯止めをかける一つ的手段としていく。

具体的には、平成 28 年度に策定した「大田原市生涯活躍のまち構想」に基づき、30 年度に「大田原市生涯活躍のまち基本計画」を策定し、事業エリアの設定や運営方針を決定、地域性を活かした次の 3 パターンのモデルをエリアごとに事業展開する。

- ・ 中心市街地における都市機能集積を活かした高齢者活躍環境強化モデル
- ・ 農山村部における多世代共生コミュニティモデル
- ・ 国際医療福祉大学近隣地域における医療福祉サービス充実モデル

### 1 事業の実施状況

#### (1) 大田原市生涯活躍のまち基本計画策定支援業務委託 (調査 : 準備)

委託先 : 株式会社三菱総合研究所 (次の①及び②について一括委託)

##### ① 関係団体等に関する調査及び意見聴取

基本計画策定にあたって、本市の現状把握、関係団体等の意向調査を実施した。

##### ② 大田原市生涯活躍のまち基本計画策定支援

①において、調査及びヒアリングを実施した内容を分析し、基本計画策定に向けた今後の進め方について検討した。

#### (2) 大田原市生涯活躍のまち推進のための啓発、P R 事業

地域住民や関係団体等を対象とした講演会を実施し、受け入れ態勢の構築を図る。

○ 大田原市生涯活躍のまち（CCRC）事業講演会の開催

開催日：平成30年3月28日（水）

会場：那須野が原ハーモニーホール

参加者：約80名

## 2 KPIの達成状況

29年度は、28年度に策定された構想に基づく基本計画の策定準備と啓発活動が中心であったため、具体的な成果目標としては地域基盤の一翼を担う見守り隊の隊員数をKPIとして設定した。

なお、30年度には、本格的な事業実施に向けた基本計画や生涯活躍のまち形成事業計画の策定の中で具体的な事業検討、事業エリアの設定を行い、31年度以降、事業エリアへの移住者数や雇用者数の増加に向けた事業を展開していくこととなる。

KPIの設定 (地域再生計画より)	平成32年度 指標値	平成29年度 指標値	平成29年度 達成状況
地域見守り隊の隊員数	2,590人	2,470人	2,551人
事業エリアへの移住者数	70人	30年度開始予定	
現地確認ツアーの参加者数	50人	31年度開始予定	
事業における雇用者数	20人	31年度開始予定	

## 〔広域連携〕

### ◎ ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業（総事業費544千円：交付金272千円）

栃木県内全25市町を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の継続的な開催を通じて、県・県内全市町・民間事業者・金融機関等が一体となって「自転車によるまちづくり」を進め、レースコースの地域資源化を図ることにより、産業やスポーツの振興、通年での観光誘客の促進、中山間地域の振興、若者の郷土愛の醸成と定住促進、農林業の振興等の施策を県全体で波及的に進めていく。

### 1 事業の実施状況

第2回ツール・ド・とちぎの開催経費（物品の制作や購入、広報、PRイベント等に要する費用）について、県及び県内全市町から大会実行委員会に負担金として支出。

#### ○ 第2回ツール・ド・とちぎの開催（総事業費：31,980千円）

開催日：平成30年3月23日（金）～25日（日） 3日間開催

23日：個人タイムトライアル（栃木市：渡良瀬遊水地）

24日：ロードレース（小山市-野木町-栃木市-壬生町-鹿沼市-日光市）

25日：ロードレース（那須町-那須塩原市-大田原市-那珂川町-茂木町-益子町-真岡市-下野市-上三川町）

参加チーム：15チーム（海外5チーム、国内10チーム）89選手



観客動員数：71,900人（初日4,900人、2日目26,000人、3日目41,000人）

※大会当日は、各市町から立哨業務等のボランティアを派遣。

## 2 KPIの達成状況

KPIの設定 (地域再生計画より)	平成32年度 指標値	平成29年度 指標値	平成29年度 達成状況
公営レンタサイクル利用者数	60,000人	57,806人	62,268人
ツール・ド・とちぎ 公式ホームページ閲覧回数	300,000回	110,000回	146,700回
外国人宿泊者数	274千人	224千人	222千人
観光消費額	6,530億円	6,290億円	6,283億円

### ◎チャリ旅！～栃木県北サイクルツーリズム事業～(総事業費4,909千円:交付金2,454千円)

矢板市を中心として、大田原市、那須町の広域連携により、サイクリスト向けの広域的な情報をWebサイト等で発信し、新たな顧客の獲得や雇用の創出により地域経済全体の活性化を図る。また、スポーツボランティアの登録・育成・派遣の体制整備により、サイクルレースやイベントの円滑な運営への参画に加え、地域を訪れる観光客全体の受入体制の強化を図る。

## 1 事業の実施状況

### (1) 自転車のまち推進事業

#### ① 情報媒体（Web、雑誌等）を活用した情報発信〔3市町連携事業〕

連携事業の実施主体となる、栃木県北サイクルツーリズム推進協議会に負担金として支出。

#### ② サイクルスポーツのPR

第2回ツール・ド・とちぎと連携し、大会のネット映像のライブ配信やキックバイク体験コーナーの設置などを通じて、サイクルスポーツをより身近に感じてもらうためのイベントを開催。

開催日：平成30年3月25日（金） ※大田原市通過日

来場者数：500人

#### ③ 市民向けサイクルスポーツの普及

プロチーム（那須ブラーゼン）による各種講座等（脱・補助輪教室、女性限定ロードバイク安全講座、ロードバイクビギナー講座、ロードバイクトレーニング講座）を通じて、スポーツができる喜びや楽しさを実感し、自転車のまち大田原のイメージを発信。

平成29年12月に、なかがわ水遊園などを会場に、市民等対象の講座を開催。

## (2) 観戦型サイクルロードレースを活用した魅力発信事業

Jプロツアーのロードレースにおいて、全国のサイクリストに本市の魅力をPRし、体験型・交流型観光としてサイクルツーリズムの誘客を図る。なお、事業実施主体の大田原クリテリウム・片岡ロードレース実行委員会に負担金として支出。

### ○ 各種Jプロツアーの開催

ア 大田原クリテリウム

開催日：平成 29 年 7 月 29 日（土）

コース：野崎工業団地内（公道：2.7 kmの周回）

参加者数：393 選手

観客動員数：4,000 人

イ やいた片岡ロードレースの開催

開催日：平成 29 年 7 月 30 日（日）

コース：JR片岡駅周辺（公道：10 kmの周回）

参加者数：439 選手

観客動員数：7,000 人

## (3) サイクルピット（自転車の駅）普及×林業振興事業

市内の製材業者及び協力事業所等と連携して、地元産材を活用したバイクラック等を作成、市内に設置することにより協力事業所等にサイクルピットを作りサイクリストの誘導を図る。また、サイクリストへの地元産材のPRにつなげる。

### ○ 事業者向けバイクラック作成教室の開催

開催日：平成 30 年 3 月 28 日（水）、31 日（土）

会場：県北体育館

参加者：市内 13 事業所（店舗）関係者

※参加事業所（店舗）の同意の上でサイクルマップに掲載

## 2 KPIの達成状況

KPIの設定 [3市町計] (地域再生計画より)	平成 31 年度 指標値	平成 29 年度 指標値	平成 29 年度 達成状況
観光客入込数	10,240,000 人	9,970,000 人	9,616,445 人
ボランティア登録数	1,000 人	500 人	66 人
Webサイトの閲覧数	41,000 回	21,000 回	2,045 回